



緊急コンソール(ershell)マニュアル

改訂履歴

版数	版改訂日	変更箇所	変更理由	変更内容
1.0	2014/12/1	初版	-	-
1.1	2016/9/1	(1) メニュー画面 (2) 外部ファイルシステム設定機能 (3) バックアップ状態リセット機能 (4) NIC LED 点滅 (5) ログ削除	仮想化対応に伴う機能見直し	(1) 機能の追加・削除 (2) 削除 (3) 新規作成 (4) 仮想環境では使用できない旨を記載 (5) 削除可能範囲を補足

- 01 起動手順等
- 02 [MN] メニュー画面
- 03 [EI-DB] DB初期化
- 04 [SN] ネットワーク状態表示
- 05 [NI] NIC LED 点滅
- 06 [PI] ネットワーク疎通確認
- 07 [RL] ログ削除
- 08 [RB] バックアップ状態リセット
- 09 [RD] サービス再起動



起動手順等

起動手順等

各画面の説明に入る前に、緊急コンソール自体の起動手段と、注意事項について説明します。

- **緊急コンソールは、コンソール画面にて [Ctrl] + [Alt] + [F7] を押下することで起動します。**
- **元のコンソール画面には [Ctrl] + [Alt] + [F1] 等で戻すことができます。**
 - **緊急コンソールからは容易にリブート等ができてしまいますので、通常時は通常コンソールに戻しておくことをお勧めします。**
- **緊急コンソール画面ではゴミのような文字列が出力され、画面が乱れることがあります。その場合はメニュー画面にて [Cancel] を押下することで、リフレッシュすることができます。**



[MN] メニュー画面

[MN01]メニュー画面

緊急コンソールメニュー画面です。
各種アクションを起動できます。

Select Action

Initialize DB
Show Network Status
Blink NIC LED
Ping
Remove Logs
Reset Backup Status
Restart Daemons
Restart Server
Shutdown Server

↑ ↓で実行したい機能を選択してください。
実行したい機能がハイライトされたら、
[Tab]で項目を移動できますので、移動後、
[OK]を押下してください

Restart (再起動) と
Shutdown (停止) は、直接
(確認画面なく) 実行されま
す。注意してご利用ください

OK

Cancel

[Tab]でOKに移動し、→でCancelを選択
できます。Cancelを選択すると、画面をリフ
レッシュ(再読み込み)します。



[EI-DB] DB初期化
(Initialize DB)

概要

- PostgreSQLデータベースを初期化します。

注意事項

- 初期化実行前に、GUIの「クラスタ管理」画面から、クラスタを停止してください。
- 詳細な手順は、マニュアル8-2「クラスタ管理」を参照してください。
- 初期化実行時に、PostgreSQLデータベース、アーカイブログ、WALを全て消去します。
- 必要な場合は、事前にバックアップを取得してください。

[EI-DB01] 初期化対象選択

Initialize DB

Initialization Target

PostgreSQL

[*] DATABASE

初期化の対象を選択後、スペースキーを押下して、チェックボックスにチェックします。
※現在はDATABASEのみ選択可能です。

[Tab]でOKに移動して[Enter]を押下し、警告表示画面に移動します。

OK

Cancel

[Tab]でOKに移動し、→でCancelを選択できます。Cancelを選択すると、メニュー画面に戻ります

Initialize DB

Please select initialization target

OK

初期化対象選択画面で何も選択しない場合、警告表示画面の代わりにこの画面が表示されます。
OKボタンを押下して前の画面に戻り、初期化対象を選択してください。

Initialize DB

WARNING

Data below will be removed:
Database cluster
Archive log
WAL

Continue to initialize?

[Tab] でContinueに移動して [Enter] を押下し、初期化を実行します。

Continue

Cancel

[Tab] でOKに移動し、→でCancelを選択できます。Cancelを選択すると、メニュー画面に戻ります

選択した初期化に関する警告です。確認後、初期化を実行する場合はContinueボタンを押下します。

[EI-DB03] 結果表示(成功時)

Initialize DB

初期化に成功した場合、
「SUCCESS」が表示されます。

SUCCESS

Initialization Database is finished.

[Tab] でOKに移動して [Enter] を押下
し、メニュー画面に戻ります。

OK

[EI-DB03] 結果表示(失敗時:例)

Initialize DB

EI-DB-001

初期化に失敗した場合、エラーコードが表示されます(エラーコードの詳細は次ページで示します)。

[Tab]でOKに移動して[Enter]を押下し、メニュー画面に戻ります。

OK

付録： DB初期化 エラーコード一覧

No	エラーコード	内容	対策
1	EI_DB_001	PostgreSQLが起動しているため、DB初期化を実行できませんでした。	クラスタが起動している可能性があります。「クラスタ管理」画面からクラスタ状態を確認してください。クラスタが停止した状態でこのエラーコードが表示された場合は、サポート窓口までご連絡ください。
2	EI_DB_002	DB初期化を実行しましたが、正常に完了できませんでした。	サポート窓口までご連絡ください。
3	EI_DB_003	DB初期化を実行しましたが、正常に完了できませんでした。	サポート窓口までご連絡ください。
4	EI_DB_004	DB初期化の実行は完了しましたが、実行前に作成した一時ファイルを実行完了後に消去できませんでした。	残存した一時ファイルは、DB初期化実行時にのみ使用するため、サービスの継続には影響ありません。念のため、サポート窓口までご連絡ください。
5	EA_CF_001	DB初期化を実行できませんでした。緊急コンソールの他の機能も使用できない可能性があります。	サポート窓口までご連絡ください。
6	EA_IO_001	DB初期化を実行できませんでした。	サポート窓口までご連絡ください。



[SN] ネットワーク状態表示
(Show Network Status)

[SN01] IP状態表示

IPやネットワークインタフェースの状態
を表示します

IP Status output

```
1: lo: <LOOPBACK,UP,LOWER_UP> mtu 16436 qdisc noqueue state U
NKNOWN
   link/loopback 00:00:00:00:00:00 brd 00:00:00:00:00:00
   inet 127.0.0.1/8 scope host lo
2: eth0: <BROADCAST,MULTICAST,SLAVE,UP,LOWER_UP> mtu 1500
qdisc pfifo_fast maste
r bond0 state UP qlen 1000
   link/ether 52:54:00:f8:79:7f brd ff:ff:ff:ff:ff:ff
3: eth1: <BROADCAST,MULTICAST,SLAVE,UP,LOWER_UP> mtu 1500
qdisc pfifo_fast maste
r bond1 state UP qlen 1000
...
```

OK

[Tab] でOKに移動し、次の画面
(ルーティング状態表示) に移動
できます

[SN02]ルーティング状態表示

ルーティングテーブルの状態を表示します

Routing Status output

Kernel IP routing table

Destination	Gateway	Genmask	Flags	Metric	Ref	Use	Iface
192.168.100.0	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0	bond0
192.168.52.0	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0	bond3
192.168.50.0	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0	bond1
192.168.51.0	0.0.0.0	255.255.255.0	U	0	0	0	bond2

...

OK

[Tab] でOKに移動し、次の画面(リンク状態表示)に移動できます

[SN03]リンク状態表示

ネットワークインタフェースの状態や統計情報を表示します

Link Status output

```
1: lo: <LOOPBACK,UP,LOWER_UP> mtu 16436 qdisc noqueue state
UNKNOWN
    link/loopback 00:00:00:00:00:00 brd 00:00:00:00:00:00
    RX: bytes  packets  errors  dropped  overrun  mcast
    3556811  8186    0      0      0      0
    TX: bytes  packets  errors  dropped  carrier  collsns
    3556811  8186    0      0      0      0
2: eth0: <BROADCAST,MULTICAST,SLAVE,UP,LOWER_UP> mtu 1500
qdisc pfifo_fast maste
r bond0 state UP qlen 1000
...
```

OK

[Tab] でOKに移動し、メニュー画面に戻ることができます



[NI] NIC LED 点滅
(Blink NIC LED)

[NIO1] NIC選択

選択したNICのLEDを点滅させます。
NICを識別する用途で利用できます。
(仮想環境では使用できません)

Blink NIC LED

eth0

eth1

eth2

eth3

↑ ↓ でLEDを点滅させるNICを選択します

OK

Cancel

[Tab] でOKに移動し、→で
Cancelを選択できます。Cancel
を選択すると、メニュー画面に戻
ります。

[NIO2] 結果表示

この画面が表示されている間、
選択したNICのLEDが点滅します。

LED点滅コマンドの結果を表示します

Blink NIC LED

eth0

eth1

eth2

eth3

Information

eth0's LED is Blinking

OK

OKでNIC選択画面に戻ることができます



[PI] ネットワーク疎通確認
(Ping)

[PI01]Ping設定

ping コマンドによる疎通確認を行います

Ping Configuration

Target IP:
Counts:

192.168.100.207

4

疎通確認したいIPと、試行回数を指定してください

OK

Cancel

[Tab] でOKに移動し、→でCancelを選択できます。Cancelを選択すると、メニュー画面に戻ります。

[PI02] Ping結果表示

Pingの結果を表示します

Ping output

```
PING 192.168.100.207 (192.168.100.207) 56 (84) bytes of data.  
64 bytes from 192.168.100.207: icmp_seq=1 ttl=64 time=1.33 ms  
64 bytes from 192.168.100.207: icmp_seq=2 ttl=64 time=0.431 ms  
64 bytes from 192.168.100.207: icmp_seq=3 ttl=64 time=0.422 ms  
64 bytes from 192.168.100.207: icmp_seq=4 ttl=64 time=0.448 ms
```

```
--- 192.168.100.207 ping statistics ---  
4 packets transmitted, 4 received, 0% packet loss, time 3002ms
```

...

OK

[Tab]でOKに移動し、メニュー画面に戻ることができます



[RL] ログ削除
(Remove Logs)

[RL01-01] ログサイズ確認

削除対象となるログのサイズを確認します

Please select a directory for log file confirmation

/var/log

/var/spool/

/dump/

/db/data/pg_log/

/archive/archivelog/

↑ ↓ でログサイズを確認したいディレクトリを選択します

Confirm

[Tab] で動作を選択します
Confirm…ディレクトリに含まれるログファイルの総量と一覧を表示します
Next…削除設定に進みます
Cancel…メニュー画面に戻ります

Next

Cancel

[RL01-02] ログサイズ確認結果

ログサイズの確認結果を表示します

Please select a directory for log file confirmation

Log files

Total 306158099 bytes:

/var/spool/messages	10092K
/var/spool/messages-20131114.gz	280K
/var/spool/messages-20131115.gz	424K
/var/spool/messages-20131116.gz	12K

...

[Tab] でOKに移動して [Enter] を押下し、前の画面(ログサイズ確認)に戻ります。

選択したディレクトリに含まれるログの総量と一覧、個々のサイズが表示されます

OK

[RL02] ログ削除設定

削除するログと削除範囲を指定します

Log remove configuration

Remove target log:

messages

jmd.log

resources

event.log

server.log

All in /var/log

↑ ↓で削除対象としたいログファイルを選択します

All in /var/log は /var/log にある全てのファイルを意味します

Date removing before from (YYYYMMDD):

20131201

削除範囲日付を選択します。ここで指定した日付より過去のファイルが削除されます(当日より3日以上前のファイルが削除可能です)

[Tab]でOKに移動して[Enter]を押下し、ログ削除確認画面に移動します。

OK

Cancel

[Tab]でOKに移動し、→でCancelを選択できます。Cancelを選択すると、メニュー画面に戻ります

[RL03] ログ削除確認

削除対象となるログの確認を行います

Log removing confirmation

Following log(s) will be removed

Total 654417 bytes

/var/log/messages-20131011.gz

/var/log/messages-20131012.gz

/var/log/messages-20131013.gz

....

13374

10

20

30

[Tab]でOKに移動して[Enter]を押下し、上記に表示したログを削除します。

OK

Cancel

削除候補となるログの総量と一覧、個々のサイズが表示されます

[Tab]でOKに移動し、→でCancelを選択できます。Cancelを選択すると、メニュー画面に戻ります

Execution result

Removed logs:

/var/log/messages-20131011.gz

/var/log/messages-20131012.gz

/var/log/messages-20131013.gz

削除されたログが表示されます

NOT Removed log(s):

削除されなかったログが表示されます

[Tab]でOKに移動して[Enter]を押下し、メニュー画面に戻ります。

OK



[RB] バックアップ状態リセット
(Reset Backup Status)

概要

- ・バックアップが異常終了した場合などに、バックアップの状態(ステータス)をリセットして正常な状態にします。

注意事項

- ・本機能は、故障発生時の復旧手順として使用します。使用可否の判断は困難なため、サポート窓口に連絡して使用可否を判断してください。

[RB01] 動作の選択

!!!!!!!!!!!!!!ご注意!!!!!!!!!!!!!!
reset DB backup status を選択する前に、
必ず DB status check を選択してください

実行したい動作を選択します

Select action

Menu:

DB status check

reset DB backup status

OK

Cancel

↑ ↓で操作を選択してください。

[Tab]でOKに移動し、→で
Cancelを選択できます。Cancel
を選択すると、メニュー画面に戻
ります。

[RB02] 状態確認

クラスタ停止時のPostgreSQLの状態を確認します

Success!!

pg_control last modified: Mon Jan 1 1 11:11:11 2014
Latest checkpoint's TimeLineID: 12

2台同時に本画面に表示されている **pg_control last modified** を確認し、**新しい時刻**のサーバで **[RB01] の reset DB backup status** を実行します。

OK

内容を確認したら、[Tab]でOKに移動し、Enterを押下します。

[RB03-1] リセット結果

成功時の結果を表示します

```
Step 1: service status check
corosync is stopped
pg_ctl: no server running
Step 2: Cleanup recovery.conf
Step 3: start PostgreSQL and enter backup mode
waiting for server to start....2014-06-04 21:38:01 JST
553538f1329.229-1 0 LOG: 0000: loaded library "pg_statsinfo"
2014-06-04 21:38:1 JST 553 538f1329.229-2 0 LOCATIN:
load_libraries, miscinit.c:1257
```

Success!!

リセットに成功すると、『Success!』と表示されます。

OK

内容を確認したら、[Tab]でOKに移動し、Enterを押下します。

[RB03-2] リセット結果 (失敗時)

失敗時の結果を表示します

```
ret: 1
stdout:
Step 1: service status check
corosync is stopped
pg_ctl: no server running
Step 2: Cleanup recovery.conf
Step 3: start PostgreSQL and enter backup mode
waiting for server to start.....2014-06-04 21:38:01 JST
553538f1329.229-1 0 LOG: 0000: loaded library "pg_statsinfo"
```

Reset Failed!!

リセットに失敗すると、『Reset Failed!!』と表示されます。

OK

内容を確認したら、[Tab]でOKに移動し、Enterを押下します。

リセット失敗となった場合は、GUIにて「情報取得」⇒「解析情報取得」と選択し、ダウンロードファイルを作成・ダウンロードして、GresCubeサポート窓口までご連絡ください。



[RD] サービス再起動 (Restart Daemons)

[RD01]サービス選択

再起動したいサービス (daemon) を
選択します

Restart Daemons

SERVICE	STATUS
httpd	stopped
sshd	running
...	

↑ ↓で再起動したいサービスを選択します
STATUSには現在のサービスの状態が表示されますので、
選択する際の参考にしてください

[Tab]でOKに移動して[Enter]を押下し、
選択したサービスを再起動します。

OK

Cancel

[Tab]でOKに移動し、→でCancelを
選択できます。Cancelを選択すると、
メニュー画面に戻ります

[RD02] 結果表示 (成功時)

再起動の結果を表示します

Restart Daemos **SUCCESS**

Stop:
Stopping httpd: [OK]

Start:
Starting httpd [OK]

restart httpd done

[Tab] でOKに移動して [Enter] を押下し、メニュー画面に戻ります。

OK

SUCCESSとなっていれば成功となります

再起動の状況が表示されます

[RD02-01] 結果表示(失敗時)

失敗時の結果を表示します

Restart Daemons **ERROR**

Stop:
Stopping httpd: [OK]

Start:

WARNING: pid file does not exist

...

Retry start 3 times but process is not running

[Tab] でOKに移動して [Enter] を押下し、メニュー画面に戻ります。

OK

**ERRORの場合は失敗となります
サポート窓口までお問い合わせ
ください**

IM-AccelDB 緊急コンソールマニュアル

第1.1版

2014年12月1日
2016年9月1日

第1.0版発行
第1.1版発行

発行者

株式会社NTTデータ イントラマート

東京都港区赤坂4-15-1 赤坂ガーデンシティ 5階

無断転載禁止